第１回 山形県・山形市新スポーツ施設整備検討会議の概要

１　日　　時　　令和７年８月４日（月）午後３時00分から午後４時45分まで

２　場　　所　　山形県建設会館　１階 大会議室

３　出 席 者　　出席者名簿のとおり

４　議事概要

（1）会長の選出

委員の互選により、山田浩久氏を会長に選出

（2）県事務局説明

①　今後の検討の進め方について

・　今後開催を予定している検討会議の内容や技術的検討支援業務委託の概要について説明（資料２）

②　県による多機能性を有する屋内スケート施設の方向性について

・　第２回山形県屋内スケート施設整備検討会議（令和６年８月22日開催）でまとめた方向性を踏まえた検討経過について説明（資料３）

・　屋内スケート施設整備に係る調査結果として、固定席500席程度があれば東北大会レベルの大会までは開催が可能であること、また、多様なニーズに応えるため、過去15年間で供用開始した11施設のうち９施設（82%）がサブリンクを設置していることを説明（資料４、５）

・　その上で、サブリンクについては、県民の多様なニーズに応えることでウェルビーイングの向上に資すると考えられることから、設置する方向で検討を進めたいと考えていること、また、固定席の具体的な数については、現時点では結論付けず、技術的検討支援業務委託の中で、500席から1,500席の範囲において精査していきたいと考えていることを説明

（3）協議

事務局説明等を踏まえた委員の意見については、下記のとおり（発言順）

【井上 圭子 委員】

まず、座席数に関して、東北の競技会を開催するためには、固定席が500席程度あれば十分という調査結果を踏まえると、最低限500席はつくってほしいな、

というところではあります。費用をかけて大きくつくったところであまり利用する頻度も少ないようではよくないと考えられますし、固定席を500席とした場合でも、仮設で3,000席程度はつくれるということだったので、私としてはそれぐらいの規模でもよいのかなと思っております。といいますのも、今後、山形市による体育館・武道館についての検討会議もあると伺っておりますが、両方とも中途半端に大きい施設になってしまってはいけないのではないかなと思います。お互い棲み分けができるような、例えばスケートリンクの方が小規模になった場合、山形市の体育館・武道館の方は少し大きくつくっていただくとか、その逆でもよいのですけれども、どちらにせよ、大規模につくった場合に使用できる頻度の競技会もあれば、小さいところで済む競技会もたくさん出てくるかと思いますので、そういった棲み分けができる規模を検討していけるとよいのではないかなと考えました。

サブリンクに関しては、あった方がよいのではないか、と思っております。と言いますのも、サブリンクがありますと、小さなお子さんに、親御さんの目の届く範囲で滑ってもらえるなど、初心者が安心してスケートを楽しめる環境ができると思っております。 ただ、サブリンクが小さすぎて細長いリンクになってしまうと初心者の方も滑りにくくなります。安全に、かつ利用価値のあるサブリンクにするためには、カーリングシート３シート分程度の広さがあるサブリンクがよいのではないかな、と思います。知的障がい者の子どもたち、スペシャルオリンピックスのアスリートも、初めは氷の上に乗ることに恐怖感もあります。ですので、大きなリンクしかないよりは、安心して遊べるようなスペースとしてサブリンクがあると、導入部分としてはよいのではないかと考えられます。費用対効果の検討もあるかとは思いますが、サブリンクはあった方がよいのではないか、と考えます。

また、このような慎重な議論も必要ではありますが、今後、この屋内スケート施設について、場所の選定、業者の選定、設計など進めていくことを考えますと、完成するのは何年後になるのだろう、と思っています。既に屋内スケート施設がなくなってから10年近くが経ち、その間、競技人口が減り続けており、それと同時に、指導者や競技役員の年齢も上がっています。この屋内スケート施設が完成し、そこで競技会をやろうとしても、競技会運営ができないということも考えられるのかなと、少し不安なところもあります。また、スケートのルールやスポーツ・スケートに対するあり方の変化、子どもの減少など、情勢の変化がめまぐるしく進む中において、それらに対応できる競技会役員等の人材を育てていく必要もありますので、やはり早期の建設をお願いしたいと思っております。以上です。

【小原 爽子 委員】

まず座席についてですけれども、御説明をお聞きしますと、スケート利用時においては、「するスポーツ」レベルの利用であれば固定席が500席で十分ですが、アイスショーなどの「みるスポーツ」、また、体育館利用時の「みる、するスポーツ」利用時には固定席数を1,500席程度とすることも検討する必要があるということかなと思っております。スケート利用時と、それから体育館利用時の様々な利用シーンを想定して、それぞれの利用シーンに応じて、どれくらいの座席数が必要なのかをきちんと詳細に検討する必要があるのではないか、と思っております。

先ほど、井上委員から御指摘のあった山形市側の体育館・武道館との棲み分けというところも、検討の中に含まれるということかと思います。また、固定席500席で、それ以上は可動席とする場合でも、電動可動席、あるいは手動の可動席、それから人力で椅子、横長の席を設置するなど、いろいろな方法があると思われます。まずは想定する建築面積や延床面積から見た導入可能性ですとか、あるいはメリット、デメリットといったところを検討した上で決定していく必要があるのかなと思います。

また、整備費や年間負担額については、令和５年度の基礎調査から引用してきている数字ですので、現在、価格が相当に上がっている可能性があるのではないか、と思います。この1.5倍とか２倍までいかないのかもしれませんけれども、専門事業者の検討においても、価格の情勢についてはしっかり分析なさる方がよいと思います。

今回の主たる議論の中身ではないのかもしれませんが、立地について、公共交通機関を利用してアクセスできる場所ということになっていますので、県内外の多様な人々の交流拠点となることが想定されます。この多機能スポーツ施設で発生する交流人口が、様々な経済的、社会的効果を生む施設になることを目指すとよいと思います。それに当たっては、場所の選定というのは非常に重要ですが、その場所のポテンシャルを生かしたエリア全体での効果、そういったものを考えて、どのように具体的に運営、活用をしていくのか、専門事業者への委託の中でも検討していくことが必要になると思います。以上でございます。

【加藤 文子 委員】

屋内スケート施設に関しましては、以前から検討を進めてまいりまして、フィギュアスケートやアイスホッケーの公式大会が開催できる仕様であることを基本として、県民、特に子どもたちに多様なアクティビティを体験してもらえ

るようになること、これを目的として無理のない運営のために、スケート以外の用途でも利用できるようにして、利用者の確保を図っていくという大枠はでき上がっていると認識しております。屋内のスケート施設について、この大枠に沿って次の技術的検討に進んでいく段階かなと感じております。

一方で、市が検討されている体育館・武道館機能を持つ施設についてはこれから検討内容が示されるということですが、一体整備ということでその相乗効果を出すことにあまりこだわると、スピード感が失われていく部分もあるかと思いますので、県の施設は県の施設で考えて、そして市の施設との調和を図っていくということは、その後でも可能なのではないか、と個人的には感じているところです。

そのスケート施設に関しまして、固定席の規模について、今後幅広に検討していくということですが、個人的には、公式大会が開催できる規模というのは必須だということを考えますと、やはり御指摘の500席は必要なのだろうなと思います。しかし、他の施設の状況などを見ると、固定席で1,500席という規模はやや過大なのかな、とも感じたところです。ただし、以前募集されたパブリックコメントなどでも、屋内スケート施設ができることによってアイスショーなどが開催されることを期待される方もおられて、そういった期待をされている方は結構県内にいらっしゃるのかな、と思います。私も、その経済効果という面でも開催できればプラスだなと考えておりますが、そういう観点から見たときに収容力には問題ないのだろうかと、ここの点は少し気になっておりました。ただ仮設席で2,000から3,000席までの増設が可能であるということであれば、それで対応できるのではないかと思っているところです。

サブリンクの設置につきましては、フィギュアスケート、アイスホッケーの公式大会ができるということだけを考えると必要がないということになるのかなと思いますが、県民に多様なアクティビティを体験してもらえるようになるというもう一つの狙いを考えると、サブリンクがあることによって、カーリングなども含めて幅広いスポーツを楽しむ機会を提供できるということは、これは間違いないのかなと感じているところです。以前、カーリング協会の方から、氷の状態について、非常に繊細さが必要とされる競技だというお話を伺ったのが印象的だったので、サブリンクにつきましては、カーリング専用ではなく色々な用途で利用する中で、カーリングに必要な氷の質が保てるのだろうか、ということが少し気になっているところではあります。この点につきまして、後ほどアドバイザーの方などの御意見を伺えればと思っているところです。以上です。

（株式会社パティネレジャー 荻原 崇次氏）

弊社が管理しているリンクで、サブリンクにおいてカーリングとスケートと両方の用途で使用しているリンクがございます。先ほどお話がありましたように、スケート用の氷とカーリングの氷というのは、質が全く異なるものになりますので、スケート用のリンクからカーリング用のリンクに切り替える作業には、一定の時間を要することになります。逆に言えば、調氷する時間をしっかり確保していれば、日常の運用の中で問題なく利用されております。

新潟市アイスアリーナのサブリンクを例にしてみますと、通常は学校等の団体やスケート教室による利用を中心とした初心者の方優先のスケートリンクとして運用しておりますけれども、カーリングでも週に約３回から４回、定期的に利用されております。このように、支障なく転換して運用ができているという状況でございます。

【山田 浩久 会長】

調氷をするために大体、どれくらいコストがかかるものなのですか。

（株式会社パティネレジャー 荻原 崇次氏）

正確な金額は見えない部分でありますが、どちらかというと、氷を調整する時間がどうしてもかかってきてしまいます。大体、スケート用からカーリングへの切り替えについては、余裕を見て２時間程度、調氷時間を確保しております。なお、通常の練習利用に加え、公式大会が行えるように、となれば、時間をかけて氷の質を上げていくことになります。しかしながら、最低限の練習ができるというところでいうと、２時間程度は作業時間として必要となっている状況でございます。

【菅間 裕晃 委員】

これまでお話しになられた方と大きくは違わないのですが、観客席とサブリンクにある程度の方向性を出して、次の段階に進めていく時期なのではないかと思います。観客席ですが、やはり公式大会をするのに必要な500席は必要だということ、それから1,500席に増やすことによって整備費が約７億円余計にかかるということであれば、そこまでは要らないのではないかということは、そのとおりだろうなと思いますが、小原委員からありましたように、どういう場合にどの程度必要になるのかということはもう一度精査していただきたいと思います。アイスショーなどのように大がかりな人手をかけられる場合には、可動式の席を後付けで設置することはできるかと思いますが、日常使いの中では、

可動式の席の設置作業はそんなに簡単なことではないと思うので、あと200席あればよかったな、ということにならないようにしなければいけないと思っているところです。ただ、基本的にはアイスリンクとして必要最低限の設備で考えていくべきではないか、と思っているところです。

次にサブリンクですが、前回も申し上げましたが、やはり県内に屋内スケート施設がこの施設だけになるということを考えると、多様なニーズを県民に提供するということは非常に重要な要素になると思っております。競技ができるというのは、我々スポーツ協会にとっては非常に大きな要素ですが、それだけではなく、県民の方に、多様なアイススポーツに親しんでいただく場所をつくることで、新たなニーズを掘り起こす起爆剤になると思いますので、費用対効果の面はありますが、ぜひそのサブリンクは考えていただきたいと考えます。また、井上委員がおっしゃいましたけれども、私も２面のカーリングのシートというのを見たことあるのですが、幅が狭い印象を受けるので、そういったところは検討していただきたいと思いました。

それから、実際にパティネレジャーさんではサブリンクを設置している屋内スケート施設の運営、管理をなさっているということですので、サブリンクの利用状況や利用者層、サブリンクの効果としてお感じになっているところがあれば、教えていただきたいなと思っております。私からは以上です。

（株式会社パティネレジャー 荻原 崇次氏）

主に二つの効果を感じております。一つ目は安全面です。一般の遊びに来られるお客様と、あとはスピードスケート、アイスホッケー、フィギュアスケート、カーリングの競技者の２種類の利用者がいる中で、やはり一つの同じ場所で初心者の方とスピードを出したりジャンプを跳んだりする選手の方が一緒に滑ることに対して、安全面で色々とクリアしなければならない問題が出てきます。そんなときにサブリンクとメインリンクがあることによって、初心者の方はサブリンクの方を優先して使用し、メインリンクで競技者の方がのびのびと練習できるというところで、利用者の安全面、また競技の競技力向上という点では大きな効果があると感じております。

もう一つは、収入面におきまして、二つのリンクがあることによって同時に二つの運用ができることが、大きな収入源に繋がるメリットと考えております。例えばメインリンクで競技会を開催する一方で、サブリンクの方で一般営業といったように、通常一つのリンクですとどちらかの運用、営業しかできないところを、二つリンクあることによって同時に行えると考えております。

スケートとなりますと、どうしても冬のスポーツ、冬のレジャーということ

で、冬の利用需要が圧倒的に多いスポーツではございます。そんな中、冬の競技会は週末に開催されることが多くございます。一般の利用者が多いのも冬の週末になりますので、その時期にどうしても競技会と一般の方のレジャー利用が重なってしまうところを、サブリンクがあることによって二つ同時に運用することができ、収入面でもプラスに繋がると感じております。以上です。

【山田 浩久 会長】

時期的に冬のスポーツというのは分かりますが、これぐらい暑いと夏の入場者数も増えないのでしょうか。涼を求めてスケートに来るというお客さんは多くないのか、このあたりいかがでしょうか。

（株式会社パティネレジャー 荻原 崇次氏）

おっしゃるとおり、冬のスポーツと申し上げましたが、ここ数年の猛暑で、夏になかなか外に出られない方も多くなっている中で、少しずつスケート場にも目を向けられてきているのか、ここ数年、夏場の利用者も徐々に増えてきている事実はございます。しかしながら、1年を通してみると、やはり現時点においても、冬の方が、圧倒的に利用者が多いというのが現状としてあるところでございます。

【山田 浩久 会長】

ありがとうございます。シーズンも徐々に変わるかもしれないというような見方があるし、やはり利用シーンを考えていく必要があるということでもあると思います。

【逸見 良昭 委員】

冒頭に、県の方に質問をさせていただきたいと思います。この検討会議が昨年11月に1回行われ、その後、昨年度中に開催されなかったのがなぜだったのか、ということがまず1つ目です。また、今回もお話のあった席数について、これはやはり、その目的によって席数が必然的に変わってくるかと思います。これに関して、プロの競技例で言えば、バスケットボールなどの利用は検討されないのかということが2つ目です。その二点、まずはお話を聞かせていただきたいと思います。

また、サブリンクについては、カーリングがメインなのか、それとも多機能で色々な用途として使っていくのか、その辺もあわせてお聞きしたいと思います。

（県事務局）

１点目の御質問については、昨年11月に１回目の会議を開催した後、年度内に何とかもう１回程度開催する方向で検討をしておりました。しかし、山形市の施設は10月の段階で初めて検討がスタートしたこともあり、それぞれの施設の役割分担なども考えると、改めて原点に返ってどのような施設とするか、慎重に検討する必要があった、ということがございます。例えば、県としてはスケート施設から検討を始めたところですが、スケート機能の充実を目指すのか、その他の機能を強く目指すのかといった点で検討を重ねてきており、一定の時間を要したものです。

２点目の御質問でプロスポーツについて何も検討されないのか、というお話がありましたけれども、我々の検討では、プロスポーツに配慮する、又はしない、ということではなく、令和４年度の屋内スケート施設あり方検討会議以降、公式大会の開催できる屋内スケート施設が県内にない、という状況をまずなんとかしたいということ、それから、そうは言ってもアイスリンクとしての用途のみで多くの県民の方が利用する施設とすることはなかなか難しいので、アリーナの機能も有した多機能型の施設をつくる、という考え方に沿って検討してきたところです。その中で、中学生、高校生の大会開催程度の体育館需要に応えられる施設にしよう、という方向で進めてきており、あり方検討の中でおまとめいただいた考え方の延長線上にしかありませんので、プロスポーツの利用を検討していない、などということではなく、これまでの検討の方向性から我々として外れたことがない、ということです。ですので、逆の言い方をすると、プロスポーツについて検討したことがない、というのが正しい言い方だと思います。

それからサブリンクの多機能性についてですが、元々、我々として経費の面、特にランニングコストの面から慎重だったサブリンクに関して、これまでお時間をいただいた中で、資料にあるような施設を実際に現地調査し、研究させていただきました。我々は当初、人口が減少してきている中で、費用を抑えるということを強く考えておりました。しかし、サブリンクのある施設を拝見させていただく中で、人口が減っている中にあってもこの施設をつくる意義を考えたときに、先ほども会長からもありましたが、ウェルビーイングの向上に資するような、多くの方に利用していただくっていう施設として、費用対効果の部分にきちんと配慮しながらも、サブリンクがあった方がよいのではないかと考えております。小さいお子さんからお年寄りまで、また競技者の皆さんまでカバーしていくような施設を考えると、やはりサブリンクが重要なのではないかと思います。

また、カーリングについて申し上げると、先ほどパティネレジャーさんからありましたとおり、カーリングとスケートの兼用で上手にサブリンクを使っている例がありますので、カーリングでの利用を考えても、サブリンクはあった方が良いのではないかと考えました。

したがって、カーリング専用で運用するのか、多機能性を持たせるのか、とおっしゃられると、我々としては、多機能性を非常に重要視していますが、当然カーリングでも十分活用できるようにしていきたいと考えているところです。以上でございます。

【逸見 良昭 委員】

ありがとうございました。もう一点、実は私、７年前ぐらいに、今の県立図書館の検討委員会の委員長などもさせていただきました。その折に一番大切にしたのが市民なり県民の声です。今回、県民の声、もしくは市民の声を実際に聞かれたのでしょうか。

（県事務局）

令和４年度に屋内スケート施設あり方検討会議を開催して報告書をまとめた際に、その過程で、競技団体からの意見をお聞きしていますし、報告書をまとめるに当たっては、パブリックコメントを実施していますので、その意味で県民の声をお聞きしているということがございます。これから、構想、計画という形でまとめることになりますので、山形市さんと一緒にやっていくことになりますが、その段階で改めてそういう場を設けていくことは考えられると思います。

また、県では、様々な場面で色々なチャンネルを持っています。例えば中学生の方とポジティブな意見交換をやりましょうという取組みを、我々の部の事業として持っていたりしておりますが、そのときに意見をお伺いしたりとか、そういう機会を捉えて実施していることはございます。

【逸見 良昭 委員】

その辺りを第一に考えて、やはり市民なり県民の声をぜひ数多く取り入れていただきたいと思います。

さて、昨年11月以降、本年行われました１月の冬季国スポのスケート競技の団長をさせていただいて、伊香保のリンクに行ってまいりました。その後、視察ということでアイスホッケーなどが行われた岡山の国際スケートリンクにもお邪魔させていただき、実際にリンクを見てまいりました。岡山の国際スケート

リンクは、メインリンクだけの施設でした。当初は、サブリンクということでカーリングのリンクがありましたが、閉鎖されたとのことです。なお、カーリングについては、高いレベルの整氷が必要で、それだけの技術者を雇わなければいけないようですので、そのあたりも検討もしていかなければならないだろうし、費用なども変わってくるのかなと思います。

その後、フラット八戸にも行ってまいりました。山形と一番違うのは、八戸に関しては、約20万人の人口の中でアイスホッケーのチームが100チーム程度あることです。アイスリンクも非常に稼働率が高いというところでございます。このように、それぞれの地域で状態が異なりますので、山形県の状況を考慮して、方向性を検討していただきたいと思います。

また、多機能性という部分について、先ほど、床の転換により体育館として中学校、高校の大会を実施するということがありましたが、フラット八戸でも床を転換して会場を設営するときは突貫工事だそうです。中学校の大会、高校の大会において、もし主催者側が会場設営の経費を負担しようとすると、大きな負担になるのではないでしょうか。そのあたりもぜひ考えていただきたいなと思います。

加えて、席数に関して、500席というお話がありましたが、再度、その目的を踏まえて、どれだけの数が必要なのか検討していただきたいと思います。中途半端にならないように、後悔しないように、それだけお願いしたいと思います。やはりこれだけの施設をつくるというのは、莫大な費用がかかり、その費用は税金です。半世紀以上は使用することになると思いますし、その税金をやはり無駄にしないようにぜひお願いしたいと思います。

それと冒頭に会長がおっしゃったように、これから人口減少が加速することが見込まれます。そういった中で、スポーツの利用者だけの施設で本当によいのかなと思います。前回も申し上げましたが、子どもたち、高校生や大学生が望んでいるアミューズメント施設を付随施設として活用し、何とか賑わいの創出につながるような施設をぜひ考えていただきたいと思います。スポーツ施設をつくって終わりではなく、地域全体を含めて考えていただきたい、そのように思うところでございます。以上でございます。

【細谷 尚寿 委員】

私、中国インターハイを８泊９日で激励してまいりました。それぞれの県、それぞれの市町村で、特徴的なスポーツのまちおこしと言いますか、活性化、振興がなされているなと感じてきた次第です。では山形県は、山形市はどうなの

だろうということを考えたときに、この屋内スケートリンクをつくるというところの整備コンセプト、このスケートリンクをつくったら、山形県の子どもたちはこうなりますよ、山形市の住民はこうなりますよ、こういう子どもたちを育てたいからスケートリンクなんだ、カーリングのできる施設をつくることでこんなふうに街が活性化していくんだ、といったコンセプトをもう少し明確にして、このスケートリンクの建設に当たっていければなと考えているところです。

先ほど逸見委員からもありましたが、山形県・山形市新スポーツ施設整備検討会議設置要綱第２条の(1)、(2)に、県は屋内スケート施設、市は体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設を検討する、とされております。山形市にお伺いしたいのは、市で検討する施設は、県体育館が果たしてきた機能を移管するものとしての体育館、そして武道館というような考え方になっているわけですけれども、一方で県の武道協議会などの競技団体が、武道館の建設を県に要望しているという状況があります。県の方では確か、県の総合運動公園の施設で代替しているという回答がある中で、山形市としては、どんなボリューム感でこの武道館を建設しようとしているのか、９月に具体的な話があるということなのでしょうけれども、現時点のイメージ感をお聞きしたいと思います。

また、この屋内スケート施設建設の計画について、先ほど井上委員からもありましたけれども、いつまでに建設するのか、どこに整備されるのか、どんなものを整備するのかというところの具体的なロードマップをきちんと明確にした上でいろんな議論を進めていければなと考えます。以上です。

（市事務局）

武道館につきましては、山形市の方も要望をいただいているところがございます。県の武道協議会さんにそういった中でもお答えしているところもありますが、今回の新スポーツ施設整備に関しましては、基本的には、現在武道館を使われている方々が、山形市が建設する武道館をしっかりと使っていけるような規模を想定してございます。それに加えて、武道される方の今後の動向などもそこに加えた上で、改めて規模感を示していければ、と思っておりますが、現段階では、まずは今お使いになられている方がしっかりとまた使っていけるような施設を想定させていただいてございます。現段階でお話できるのはそのような形かと思っております。

（県事務局）

今、細谷委員からあった件について若干補足をさせていただくと、コンセプトや目指すべき姿については、令和４年度のあり方検討会議でもうお示しをしているものと私どもは捉えています。したがって、繰り返しになりますが、県内でアイスホッケー、フィギュアスケートの公式大会ができる施設がなくなってしまったという部分をどう考えるか、ということと、そうは言いながらもスケートだけで利用する施設を、民間が運営できずになくなってしまったものを県が単純に引き取るわけにはいかないので、そこは県民の方が多く利用できる施設というものを目指していくということで、考えております。

一方で、ロードマップについては御指摘のとおりかと思います。検討も４年目に入っておりますし、皆様から色々な材料をいただいたり、あるいは私どもで見させていただいたりしている中で、御指摘のありましたまちづくりの観点、地域活性化の観点など、そういった様々な部分も含めて整理していくべき時期にきていると意識をしておりますので、その部分を再度整理させていただいて、庁内のコンセンサスも取りながらお示しさせていただきたいと考えております。

【山田 浩久 会長】

ありがとうございます。今、細谷委員がお話したコンセプトに関しては多分、委員はもう少し明確な部分で、県民の全ての人が楽しめるようなスポーツ施設をつくる方向性を示すのか、あるいは例えばの話ですが、スポーツマンを育成するための、それに特化したような施設を目指すのか。あるいは、先ほど逸見委員からあったようなプロスポーツを誘致するための施設をつくるのか、など、そういう方向性のことではないでしょうか。

【細谷 尚寿 委員】

私が話させていただいたのは、この施設をつくる上で、山形県の子どもたち、あるいは山形市の子どもたちをこう育てたい、山形県の子どもたちはこうなっていくんだということをある程度視野に入れて、屋内スケート場で何をしていくのか、サブリンクでカーリングをすることで、子どもたちや県民がこうなっていくんだ、健康面でもこんなふうに活性化していきますよ、など、そんなコンセプトが欲しいと思っております。

【山田 浩久 会長】

お話があったように既にコンセプトは決まったということは皆さんも認識さ

れていると思いますが、今、細谷委員がお話したようなビジョンですね。こういう施設で、ウェルビーイングの一つでもありますが、まさに子どもをどう育てていくか、この施設を使ってどう成長させていくのか、どういう未来を描かせるのか、というような最終ゴールの部分はやはり必要になってくるのではないかと思いますので、既に決まっているコンセプトより将来的なものも含めたビジョンとして、再度御提示いただけるとわかりやすくなってくるのではないか、と思いました。

【逸見 良昭 委員】

山形県内には、公式大会が開催できる屋内の50mプールや屋内の相撲場もありません。その中で、なぜ屋内スケート施設をつくるのか、その辺りのストーリーをぜひ示していただきたいと思います。

また、山形市スポーツ協会では、管理している屋外スケート場の利用者を増やすことを目的に、夏場に利用できる人工のスケート場をつくろうとして、樹脂製のリンクを整備する検討をしたことがあります。こういったものを利用しつつ、屋内スケート施設のニーズ調査をしていく、あるいはスケート人口を増やしていく、といったことも検討していただきたいと思います。

【益満 環 委員】

私からは二つほど、お聞きしたいことと感想をお話させていただきます。秋田では、公共施設の建築ラッシュが進んでいまして、例えば、秋田県ではＢリーグチームの本拠地となる新秋田県立体育館を、150億円程度使って、２年前にさあ建てるぞ、ということになりました。そのときも高いな、という話がありましたが、それから２年、今年から事業に着手というところで、なんと倍の300億円超になったんですね。それでも、県はやる、ということでしたし、Ｂリーグチームが、我々が稼ぐ、とはっきり言ったのでそのまま着手という形になっています。また、山形に近い横手市というかまくらで有名なところは、２年前に新市民会館を整備するということで計画を立てて、現在、２年経って、こちらの整備費も56億円が２倍の130億になり、整備計画を一時中断することになりました。先ほど、細谷委員がおっしゃられたように、コストの面とロードマップの面を考えて、さて何年後になるのだろうということを考えますと、この50億円前後の金額がとんでもない金額になって、蓋を開けてみたら結局できなかったということにならなければよいなと思います。そのあたりの見通しをまず１つ目、ぜひお聞きしたいと思います。

それと２点目ですが、頻繁にウェルビーイングっていう言葉が出てきておりますが、税金を使っている以上、公益性がなければ駄目だと思っています。一部の高校生とか、一部の競技者だけでは多分人は集まらないと思っていますし、やはり県民の皆さんに施設を使ってもらって、50億使って大変良かったな、と言ってもらえるような、特にソフト面の取組みを実施していただきたいなと思っています。ゼビオアリーナ仙台が改修され、約7,000人の収容もできるということで、秋田でもかなり大々的なニュースになりました。今回検討する施設について、仙台に行った方が楽しいし、そちらの方が大きいということにならないように、ぜひ差別化をしていただきたいと思っております。特に、県とアドバイザーの方々に聞きたいのは、その50億が本当に実現可能かどうか、そのあたりの見通しを聞かせていただければと思います。以上です。

（クロススポーツマーケティング株式会社 青島 侑也氏）

ゼビオアリーナ仙台やフラット八戸を運営しております。フラット八戸は、2020年にオープンしました。そのときからの物価上昇を踏まえると、現在、3,000席のアリーナをつくろうとすると、50億円だとかなり厳しいのではないか、というのが見立てになります。細かく要件定義していく必要はありますけれども、はじめ50億円と見積もっても、着工する頃にはまた上がっている可能性もあります。

（県事務局）

非常にクリティカルな問題として、金額という問題があることは認識をしております。したがって、例えば、50億円という金額でつくりましょうということを今この場で決めているわけでもありませんので、今までの検討の中で出てきたのが、令和５年度の基礎調査としては50億円だったということで、まず御理解をいただきたいと思います。

【山田 浩久 会長】

ありがとうございます。先ほどもお話が出ましたが、今後を見通すためにも早急にロードマップを作りましょう、ということは、この会議の提言として申し上げていきたいと思います。

また、時間が決まっていてその期間内につくらなければいけないのか、予算があってその予算の範囲内でつくらなければいけないのか、目的が明確で時間とお金をかけてもその目的を達成するためにつくらなければいけないのか。やはり何のために誰が利用して、どういう子どもたちを育てるのかというビジョ

ンが、何を最優先に考えるのか、ということの決め手になってくるのではないかと思います。

【山川 唯美 委員】

サブリンクの有無、固定席の数、また整備費について、ここに並んでいる数字が具体的に想像できなくて、正直申し上げて、一県民として私が今、専門的な意見を言えるところに至っていないな、というのが正直な感想になります。

その上で、この夏の週末、子どもを連れて海水浴に行ってきたのですが、そこで感じたことは、子どもはどこでも楽しめるから、先ほど細谷委員がおっしゃったように、どんなものをつくるか、どうなってほしいかを考えるのは大人の責任、つくる方の責任であるなと思っています。そこで子どもたちを放てば、きっと導いた先に行ってくれるのではないかと思います。本人たちに行きたいか行きたくないかを問わず、大人が海水浴に連れて行って、子どもたちはすごく楽しんでいたので、そういったことを少し初心に帰って考えるべきなのかなと、最後、皆様のお話を聞きながら思ったところです。

この整備費についても、全然ピンときていなくて、実際にこの金額をかけて、私たちが市、県民税を払う中でいくら負担が増えるのかといったところが、正直家計の中では気になるところだと思って聞いていました。子どもたちが税金を払う年齢になったときに、これをつくったことによる負担がどのぐらいなのか、それ以上に楽しめるものになっているかという点を、話を聞きながら親として、一県民として感じたところです。なかなか専門的な話ができず恐縮ですが、以上になります。

【山田 浩久 会長】

専門的な話は、自治体がしっかり費用対効果や予算を考えてお話することだと思いますので、大人が導けば子どもは育っていく、といった山川委員の意見こそが重要な部分だと思います。我々がどんなものをつくって、どんな子どもに育てていきたいか、わかるような施設を考えていくことが、やはり重要ではないかと思います。

【栗田 和真 委員】※当日欠席につき、山田会長より、事前に提出のあった栗田委員の意見の読み上げ

栗田委員は本日欠席されておりますが、御意見をいただいておりますので読み上げさせていただきます。

サブリンクに関しては、令和９年度からは全国中学体育大会の種目からアイスホッケーとスケートが外れることになっているので、屋内スケート施設がで

きれば、一般の利用が中心になると思われる。子どもたちや親子連れ等の一般利用者が楽しめる施設を目指すには、サブリンクはあった方がよいのではないか。

観客席についても、スケート競技の実施を考えれば、固定席1,500席は必要ないと思うし、興行の開催回数もそれほど多くないと考えられるので、固定席で500席程度の水準で妥当だと思われる。断熱床を敷いてバスケットボールを開催する場合でも、バスケットボールコートが１面しか取れないとすると、観客は1,500人も入ることはないだろう。

まとめとして、スケートを子どものときに体験していれば、大人になっても子どもをスケート場に連れて行こうとなりやすい。一般の県民、市民の利用を中心に考え、固定座席を抑えてサブリンクを設置する方向は良いのではないか。以上が栗田委員からいただいた御意見ということになります。

【山田 浩久 会長】

私からは、その都度少しずつ私の意見を出してきましたので、私からの意見というのは割愛しますけれども、大体の意見として、本日の会議では、県民のウェルビーイングの向上を目指してこの施設をつくるということに関しては皆さん総意で賛成されており、サブリンクに関しても多機能性を有する施設ということでつくった方がよいのではないかというのが、この会議全体の意見ではなかったかと思います。

固定席数についても、事務局からは500席程度あれば、アイススポーツの東北大会レベルの大会までは開催が可能という説明がありました。委員の皆様からは様々な意見がありましたが、事務局の説明にもあったように、山形市で検討する地域住民のためのスポーツ施設との相乗効果であるとか、それらとの連携といった観点からも併せて今後詰めていく必要があるだろうということであります。500席の次、いきなり1,500席と、二択で考えるというわけではなくて、500席程度は必要だけれども過不足なく700席は必要だ、800席は必要だという話に今後なっていくのではないかと思います。引き続き検討していく事項として、事務局に判断をお任せしたいと思います。

本日、事務局からは次回の会議後、具体的な施設のイメージについて技術的な事項も含めてさらに検討を深めるため、本会議の委員に建設、設計の専門家も加えるほか、専門的な民間事業者への業務委託により支援を受ける予定という説明もありました。固定座席については現時点で県と市が、まだ明確な結論を出すことはせず、施設のレイアウトなどの技術的な検討の中で詳細を詰めていくことになると思われます。

次回の会議では、本日の議論を踏まえて山形市による体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設の方向性などについて協議する予定となっています。複合スポーツ施設として屋内スケート施設と地域住民のためのスポーツ施設の機能的な結びつきにも配慮して、事務局で検討を進めてほしいと思います。

5　そ の 他

９月５日に次回の会議を開催する予定としていることを事務局から説明した。

以　　上